

氏名	真 鍋 良 二
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3830号
学位授与の日付	平成15年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	C型慢性肝炎におけるHCV-免疫複合体形成とインターフェロン治療効果との関係
論文審査委員	教授 小出 典男 教授 加藤 宣之 教授 田中 紀章

学位論文内容の要旨

インターフェロン (IFN) 治療を行ったC型慢性肝炎症例の中で INF 耐性の多い Genotype1b の症例について、IFN 有効であったものと無効であった症例を対象とし、retrospective に抗ヒト免疫グロブリン抗体を血清に添加して人工的に免疫複合体と上清に分離し、各分画の HCV RNA 量を Real-time PCR 法で測定・解析することにより IFN の治療効果を IFN 投与開始前に予想することが可能かどうかを検討した。

その結果、Wato らが粒子が重いほう、すなわち沈渣の HCV RNA 量が多い方が、そして上清に少ない方が若干 IFN 治療効果が高いとした報告と異なり、免疫グロブリンが結合している (沈渣の HCV RNA) 比率が小さい方が、また沈渣の HCV RNA 量が単独で少ない方に IFN 治療効果が高い例が多い傾向もあったが統計的には有意な結果ではなかった。

HCV RNA の定量は、アンプリコア法と Real-timePCR 法で一致しない症例もあり、血清希釈法による半定量的 RT-PCR 法による測定も HCV RNA 定量法として有用と考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、C型慢性肝炎のインターフェロン治療効果について、免疫複合体を形成しているC型肝炎ウイルスを有する症例がインターフェロン治療が効果的であるか否かについて研究したものであり、有意差はないものの免疫グロブリン結合型ウイルスの少ない方がインターフェロン治療効果が高い傾向があるとしている。

症例の追加検討を求めたところ、同様の傾向がさらに強く認められた。研究目的は明確であり実験結果にも一定の傾向が伺えるが、結果が不明瞭であることより、症例の追加検討が求められた。再提出された論文では免疫グロブリン結合型ウイルスの少ない方がインターフェロン治療効果が高い傾向がさらに強く認められた。このことから本研究はC型慢性肝炎のインターフェロン治療に関する重要な知見であり価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。